

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

地方独立行政法人 山口県立病院機構

山口県立総合医療センター



Principle
基本理念

県民の健康と生命を守るために
満足度の高い医療を提供する。

Vision
目 標

患者本位の医療 良質な医療 地域に開かれた医療
親切な医療 信頼される医療

を提供し、県民の健康に資する。

Policy
基本方針

医学・医術の進歩、疾病構造の変化、
医療領域の拡大、医療の情報化に対応できる基幹病院として
県内の医療機関との機能分担と連携を図るとともに
県民の健康と生命を守るために
良質で満足度の高い医療を効率的に提供し
県民の福祉の増進に寄与する。

- ◎ 5疾病(がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、精神疾患)等に関する高度専門・特殊医療の推進
- ◎ 6事業(救急、災害、へき地、周産期、小児、感染症)等に関する積極的な取組
- ◎ 本県の医療水準維持・向上のための支援機能の充実
- ◎ 医療の質及び安全性の確保と患者サービスの充実
- ◎ 効率的・効果的な業務運営による経営健全化の実現
- ◎ 移転建替に向けた機能強化の推進

Message

山口県立総合医療センターは、「山口県立防府総合病院」として発足し、令和元年で創立70周年を迎えました。この間、県立病院として、救急医療・周産期医療・小児医療・へき地医療・災害医療・感染症医療など、他の医療機関では対応困難な分野や不採算医療などに対し責任のある取り組みを行ってきました。さらに、高度急性期・専門医療を担う県の基幹病院として、充実した医療基盤を活用し、新たな治療への取組を進めるとともに、更なる高度専門医療の充実を図っています。

これからも「県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する。」の基本理念のもと、全職員が一丸となり、県民のみなさまの豊かで質の高い日常生活の実現・維持に向けて全力で取り組んでまいりたいと考えております。



院長
武藤 正彦

あなたの健康と幸せのために。

私たちは県立総合病院として
真に安心できる医療を提供します



Health and Happiness.



救急医療



山口・防府保健医療圏唯一の救命救急センター

年間の受入患者数は約12,000人であり、前身である山口県立中央病院時代から救急の最後の砦としての役割を長く担っています。ICUには、手術後の重症患者さんだけでなく、呼吸循環管理を必要とする多種多様な患者さんが入室し、専任の麻酔科医が24時間体制で治療・救命にあたっています。高度な手術にも対応できるよう、最新の医療機器を積極的に導入し、質の高い救急医療を提供しています。



ICU



周産期医療



県内初の総合周産期母子医療センター

当院の周産期センターは30床を運用している産科部門と、12床のNICU、18床のGCUを運用している新生児部門、新生児の手術を担当する新生児外科部門で構成されています。正常なお産からハイリスク分娩に至るまで、様々な分娩に対応できる体制を整えるとともに、質の高い不妊治療や、NIPT(母体血胎児染色体検査)にも対応しています。



新生児看護(NICU)

顕微授精



へき地医療



へき地医療機関で勤務する専攻医の対面指導



災害医療



花巻空港SCU支援(2011年東日本大震災)

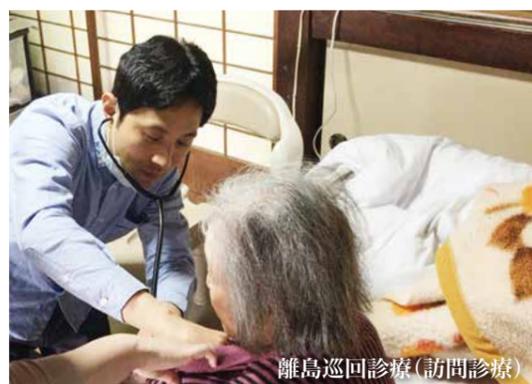


頻発する自然災害に対し 万全の備えを

当院は、山口県の基幹災害拠点病院に指定されています。災害発生時でも病院機能を維持させるために、ハード面では、診療材料、水、燃料など必要物品の備蓄を行い、ソフト面ではBCP(事業継続計画)を整備し、災害発生対応訓練を実施しています。DMAT(災害派遣医療チーム)も2隊保有しており、実働訓練など積極的に参加しています。

全国平均に比べ10年先行している山口県の高齢化

山口県のへき地では、慢性的な医師不足となっており、このような地域の医療を守ることがへき地医療拠点病院のミッションです。現地に直接赴いて診療を行うこともあれば、ICT技術を活用し、へき地診療所に勤務する医師のサポートを行うなど、活動は多岐にわたります。また、学生を対象にしたセミナーの開催、専門医養成プログラムの運営など、へき地をフィールドに次世代を育成する仕組みの構築を目指しています。



離島巡回診療(訪問診療)



へき地診療所とのWebカンファレンス



感染症医療



患者発生想定訓練



感染症センター(加棟)

目に見えない脅威から、 山口県を守るために

エボラ出血熱など危険性が極めて高い一類感染症や、鳥インフルエンザ(H5N1)などの二類感染症患者の入院医療を行う施設を第一種感染症指定医療機関といい、山口県内では当院が唯一指定を受けています。また新型コロナウイルス感染症等の新興感染症に対しても、重症、中等症の患者の受け入れを行う県の重点医療機関としての体制を整備しています。

がん治療への取り組み

地域がん診療連携拠点病院としての姿勢

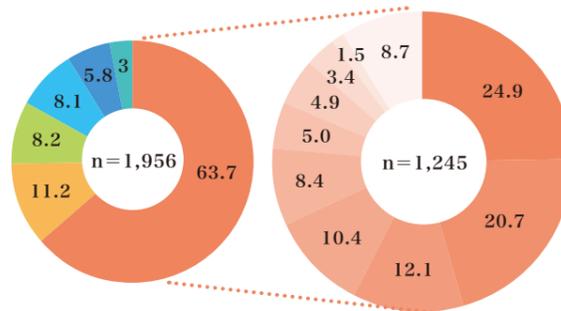
山口県立総合医療センターのがん診療の特徴は、5大がんはもちろんのこと、それら以外のがん診療にも積極的に取り組んでいることです。診療科や部門、職種の垣根を越えたチームワークがこれを支えています。

全がん患者数の割合(%)

2023年度退院患者数

5大がん以外	1,245
大腸がん	220
肺がん	160
乳がん	159
胃がん	113
肝がん	59
計	1,956

5大がん以外の割合(%)



2023年度退院患者数

泌尿器系がん	310
血液がん	258
婦人科系がん	151
頭頸部がん	130
食道がん	104
皮膚がん	62
膀胱がん	61
胆嚢・胆管がん	42
脳腫瘍	19
その他	108
計	1,245



手術

当院では、低侵襲外科治療を積極的に取り入れています。一方、腫瘍切除のために拡大手術を行った場合は、形成外科を中心として、欠損部の再建を担当しています。



放射線治療

放射線治療は機能と形態の温存が可能で、身体的負担が少ない治療方法です。カンファレンスを定期的に行い、できるだけ早く放射線治療が開始できるよう努めています。



化学療法

外来でのがん化学療法の増加に対応するため、15床の外来治療室を整備しています。医師を中心として多くの職種が連携し、患者さんやご家族に寄り添い治療を進めています。



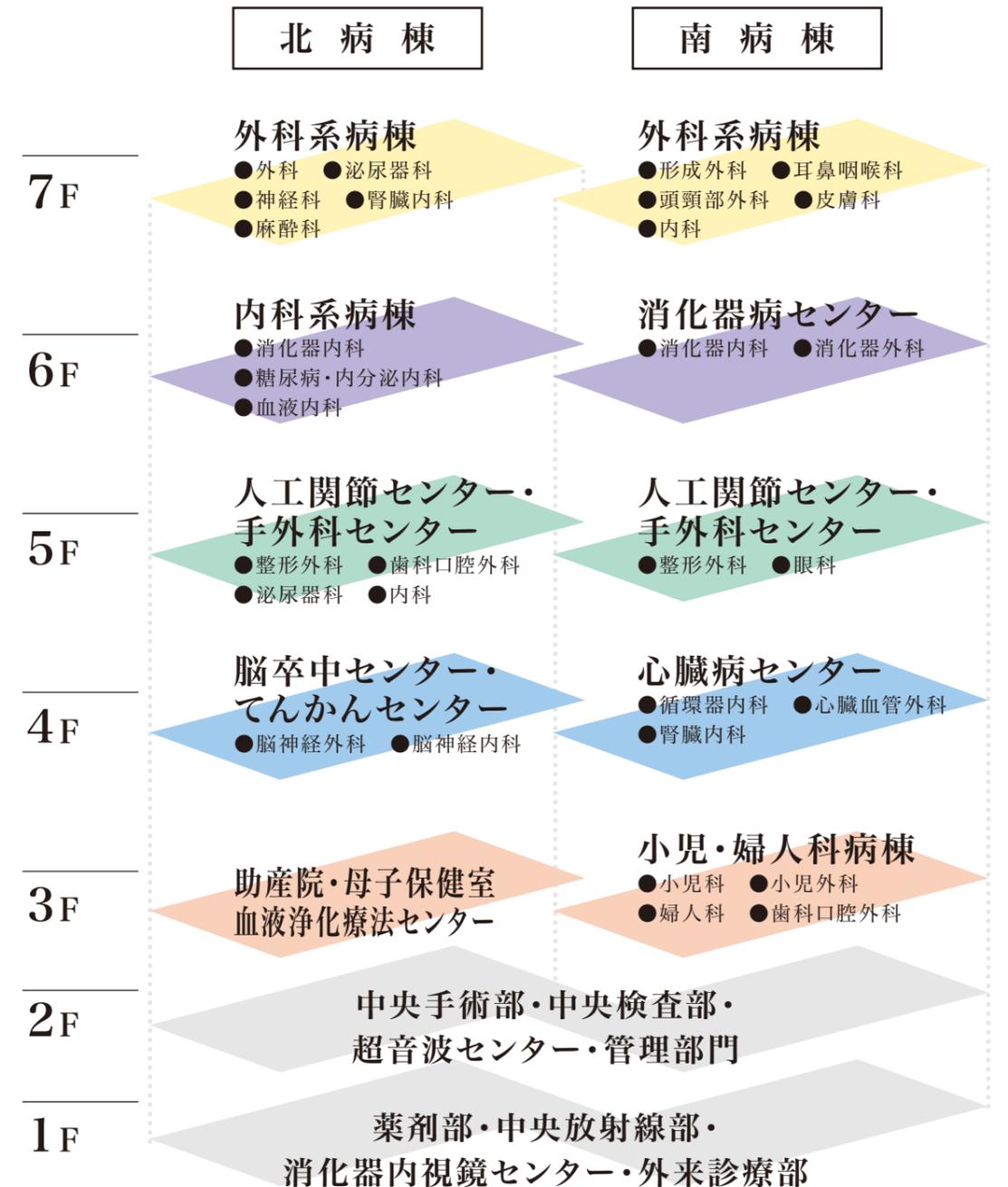
がんゲノム医療

当院はがんゲノム医療連携病院に指定され、がん遺伝子パネル検査を実施しています。がん遺伝子パネル検査は、がん細胞に起きている遺伝子の変異に基づき分子標的薬を探る検査です。

臓器・疾患別センター

高度専門医療を効率的・効果的に提供していくために

内科系・外科系医師が高い専門性をもって診療にあたることのできるよう、病棟の機能強化を目的とした再編を行い、臓器・疾患別にセンター化を図りました。また、今後の超高齢化社会の医療ニーズの変化に対応できるよう、急性期医療後の在宅復帰に向けた医療や支援を行うために、人材育成を行っています。



チーム医療

それぞれが持つ専門性をひとつに

山口県立総合医療センターは約1,100名の職員が27の職種に分かれ業務を行っています。様々な職種のスタッフが患者さんの病状に応じて以下の様なチームを組み、意見を交換しながら治療を進めています。それぞれが持つ専門性は非常に高く、これをひとつにできるのも総合病院の特徴です。



緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、がん相談支援センタースタッフ等で構成されています。よりよい入院生活が送れるよう、主治医や担当看護師と共に緩和ケアを提供します。

NST(栄養サポートチーム)

すべての患者さんを栄養面から総合的にサポートするため、各職種が専門的立場で患者さんをアセスメントし、適切な栄養管理を支援しています。2017年にはNST専門療法士認定教育施設に認定されています。

褥瘡対策チーム

皮膚科医師及び形成外科医師が中心となり、看護師や管理栄養士など多職種が協働しています。入院患者さんに褥瘡が発生しないように、また、褥瘡が悪化せず回復に向かうように褥瘡対策に取り組んでいます。

呼吸ケアチーム

人工呼吸器を装着している患者さんの呼吸管理の向上・標準化および人工呼吸器からの早期離脱を目的としています。定期回診、マニュアル策定による標準化推進等、積極的な活動を展開しています。

認知症ケアチーム

医師、看護師、社会福祉士で構成されるチームです。認知機能の低下した患者さんが入院治療をスムーズに受けられるように、療養環境の調整等について病棟スタッフと一緒に考えケアを提供しています。

RRT(院内迅速対応チーム)

患者さんに心肺停止などの緊急事態が発生した場合にコードブルーを発動します。RRTは、心肺停止などの緊急事態を未然に防ぐために患者さんの急変の数時間前の身体兆候の変化を早めに見極め、情報を共有し、治療介入するチームです。

地域連携

垣根を越えた連携、地域のみならず支える医療

「地域医療支援病院」として、地域の医療機関と連携をとり患者さんの治療を行っています。その窓口となるのが「患者支援連携センター」であり、「地域医療連携室」「医療相談室」「入退院支援センター」で構成されています。それぞれの部門が地域の医療機関と患者さんをつなぐ架け橋となり、地域医療に貢献できるよう努力しています。

充実した相談体制

患者さんをトータルサポートするべく、専門職による相談体制を整えています。特に、「地域がん診療連携拠点病院」として、がんに関する相談体制にも力を入れています。

地域に開かれた研修

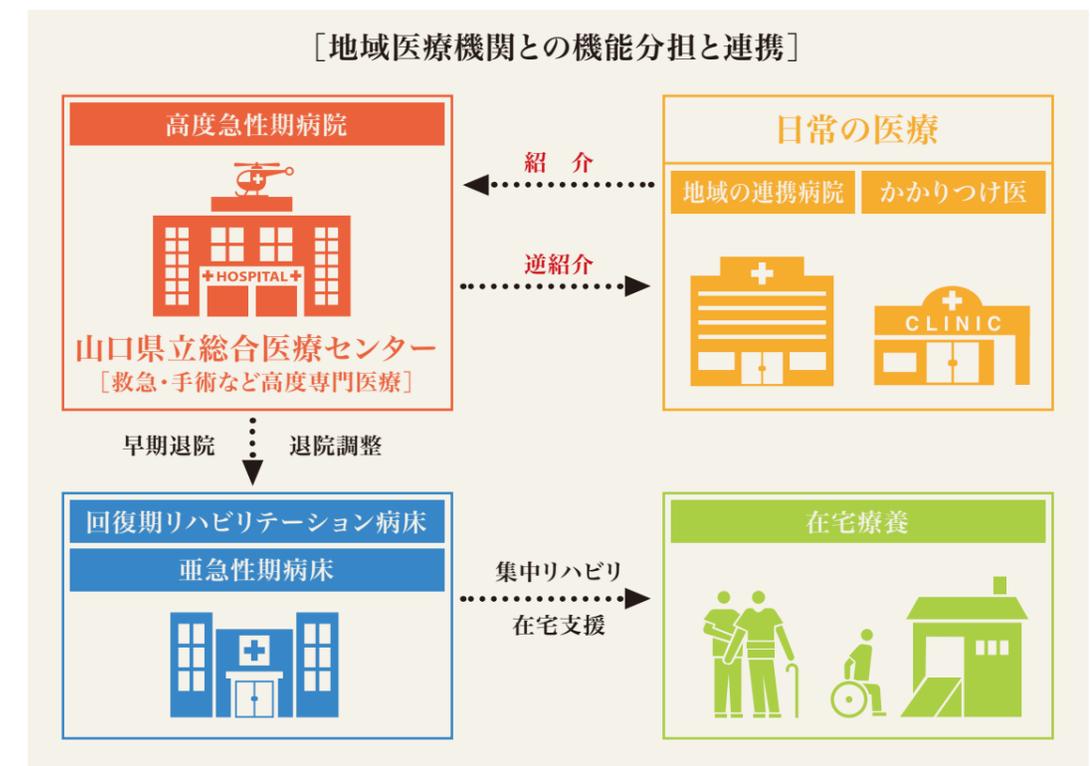
当院で開催する研修会の中には、院外の方も受講できるものがあります。地域医療連携を推進していくうえで、人材育成の面でも連携を図ることは重要であると考えています。

地域連携クリニカルパス

「五大がん」「脳卒中」「大腿骨頸部骨折」「虚血性心疾患」「心不全」などの疾患について、地域連携クリニカルパスの運用を推進しています。連携医療機関のさらなる拡大を目指しています。

入退院支援センター

入院予定の患者さんの情報を早期から把握し、入院前から退院後まで一貫した支援を提供することにより、患者サービスの向上と急性期医療の充実を図ることを目的としています。



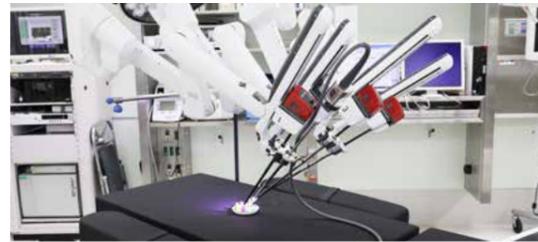
最新医療への取り組み

診断・治療に必要な最新医療機器の整備、幅広い分野の専門家による最先端テクノロジーの導入を推進しています。



ハイブリッド手術システム

ハイブリッド手術システムとは、手術室と血管造影装置を組み合わせた手術室のことで、それぞれ別の場所に設置されていた機器を組み合わせることにより、最新の医療技術に対応します。



ダビンチXi

ダビンチは内視鏡カメラとロボットアーム操作による鉗子を患者の体腔内に挿入して手術する支援ロボットです。医師は立体的で鮮明な画像システムと手振れのない多関節鉗子により、手術の精確性が向上するとともに患者の身体負担が軽減されるメリットがあります。



人工関節センター

国内でもいち早く2台の人工関節用ロボットを導入して、低侵襲で正確な人工関節手術を目指しています。他にも筋肉を温存する手術手技の導入や股・膝・肩・肘・指・足関節と多岐に渡る人工関節手術に対応できるのも当院の特徴の一つです。



小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存

がん治療により、子どもをつくる能力を失う可能性のある若い男女に対して、将来、自分の子どもを持つ可能性を残せるように卵巣、卵子、胚(受精卵)、精子の凍結を行っています。



PET/CT

PET/CTは、放射性薬剤を体内に投与し特殊なカメラで撮影するPETと、臓器のかたちを画像化するCTを組み合わせることで、より精密ながん診断に役立つ検査です。一度の撮影で全身の検査ができ、患者さんへの負担が小さいとされています。

山口県立総合医療センターの特色

充実の医師数



常勤医師数約150名と、県内トップクラスの医師数を誇ります。それぞれが持つ専門性は多岐にわたり、高度急性期・専門医療の提供を実現しています。

安定した新規入院患者数



新規入院患者数は、毎年10,000人を超えています。今後も、地域のみなさまに選ばれる病院であり続けるために、私たちの進化はとまりません。

分娩件数



山口県初の総合周産期母子医療センターとして、毎年約600件のお産に対応しています。正常分娩からハイリスク分娩にも対応し、地域のお産を支えています。

人工関節手術件数

	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (年)
人工股関節置換術	239	253	282	322	272	379
人工膝関節置換術	278	353	398	447	367	559
その他(肩・肘・手指)の人工関節置換術	18	37	31	38	33	23
合計	535	643	711	807	672	961

当院の人工関節センターは、西日本でもトップクラスの手術件数です。長年培われた信頼と実績に基づいた質の高い治療を提供します。



Human Resources Development

人材育成

選ばれ続ける病院であるために
私たちは職員一人ひとりのレベルアップを大切にしています。



歴史ある臨床研修病院として

平成16年の初期臨床研修制度開始後、毎年10名前後の医師が当院で研修しています。当院は、従来から自治医科大学卒業生の研修指定病院としてスーパーローテーション方式の研修を30年以上に渡り行ってきており、臨床研修医に対する指導力と経験は県内トップクラスです。研修終了後の医師の多くはそれぞれ県内各地で活躍し、山口県の医療を支えています。

幅広い分野の症例

救命救急センターでは、一次から三次まで年間約12,000人の救急患者を受け入れており、指導医の下で多くの症例のfirst touchを経験することができます。そのためCommon Diseaseに触れることができ、初期診療・プライマリケアの習得ができるほか、県の基幹病院ならではの専門的で高度な医療を学ぶことができます。

経験豊富な指導医

初期研修医を除く医師のうち、約半数の医師が臨床研修指導医講習会を受講しており、経験が豊富な指導医が指導にあたっています。大学病院で教員職を務めた指導医も多数在籍し、確かなフィードバックを受けることも可能です。3年目から7年目の医師も多く、屋根瓦方式の教育体制をとっており、レベルの高い研修を受けられる環境が整っています。



看護部教育体制

全職員の約半数を占める看護部は、患者さんと接する機会も多く、病院の顔として安全で質の高い看護の提供を目指しています。その実現のためにも、職員一人ひとりに合った教育は重要であり、専門職業人としての成長段階に応じた教育計画を構築しています。職員同士が互いに支え合い、協力し合いながら、自ら学び育つ環境を整えています

■ 新人看護師の成長を支援するプリセプターシップ

プリセプターシップとは、プリセプターと呼ばれる先輩看護師が、新人看護師をマンツーマンで支援する体制のことです。当院は、さらに新人看護師とプリセプターの成長を見守るエルダーと呼ばれる中堅看護師も教育に加わり、後輩看護師の成長を支援しています。経験が浅く、不安が多い時期に相談相手が明確になっていることにより、安心して勤務できるようサポートしています。

■ 専門性を活かし活躍する看護師

医療の高度化や専門化が進む現在、看護師にも専門性が求められています。日本看護協会が認定する専門看護師や認定看護師が当院にも多数在籍しており、それぞれが様々なフィールドで専門性を発揮しながら院内・院外において活躍しています。

専門看護師	
がん看護	2名
急性・重症患者看護	1名
認定看護師	
集中ケア	2名
新生児集中ケア	1名
がん性疼痛看護	1名
緩和ケア	1名
がん化学療法看護	1名
感染管理	2名
皮膚・排泄ケア看護	1名
救急看護	1名
認知症看護	1名
脳卒中リハビリ	1名
がん放射線療法看護	1名
特定行為研修修了者	3名

(令和6年4月1日現在)

働きやすい環境づくり

職員が働きやすい環境づくりは、良好な人間関係の構築にもつながります。そして、職員満足度の向上が、さらなる患者サービスの充実を実現するものと考えています。将来を見据え、安心して勤務できるよう施設環境の整備に取り組んでいます。



臨床研修棟

[HOPE:HOfu Practice Enhance]

主に研修医医局、手技の実習を行えるトレーニングルーム、臨床研究センターの機能を有する施設として、2019年4月から供用を開始しました。愛称のHOPEには、防府(HOfu)で訓練・実践(Practice)し、互いに高めあおう(Enhance)という意味が込められています。



なかよし保育園

1972年4月に院内保育所として開設しました。通常保育に加え、病児保育・夜間保育も行っており、職員が安心して子どもを預け、働けるようサービスの充実を図っています。



姫山職員寮

病院まで徒歩5分の場所に、初期臨床研修医、採用3年以内の看護師を対象とした職員寮を完備しています。2013年10月に改修を行い、快適な居室空間となっています。



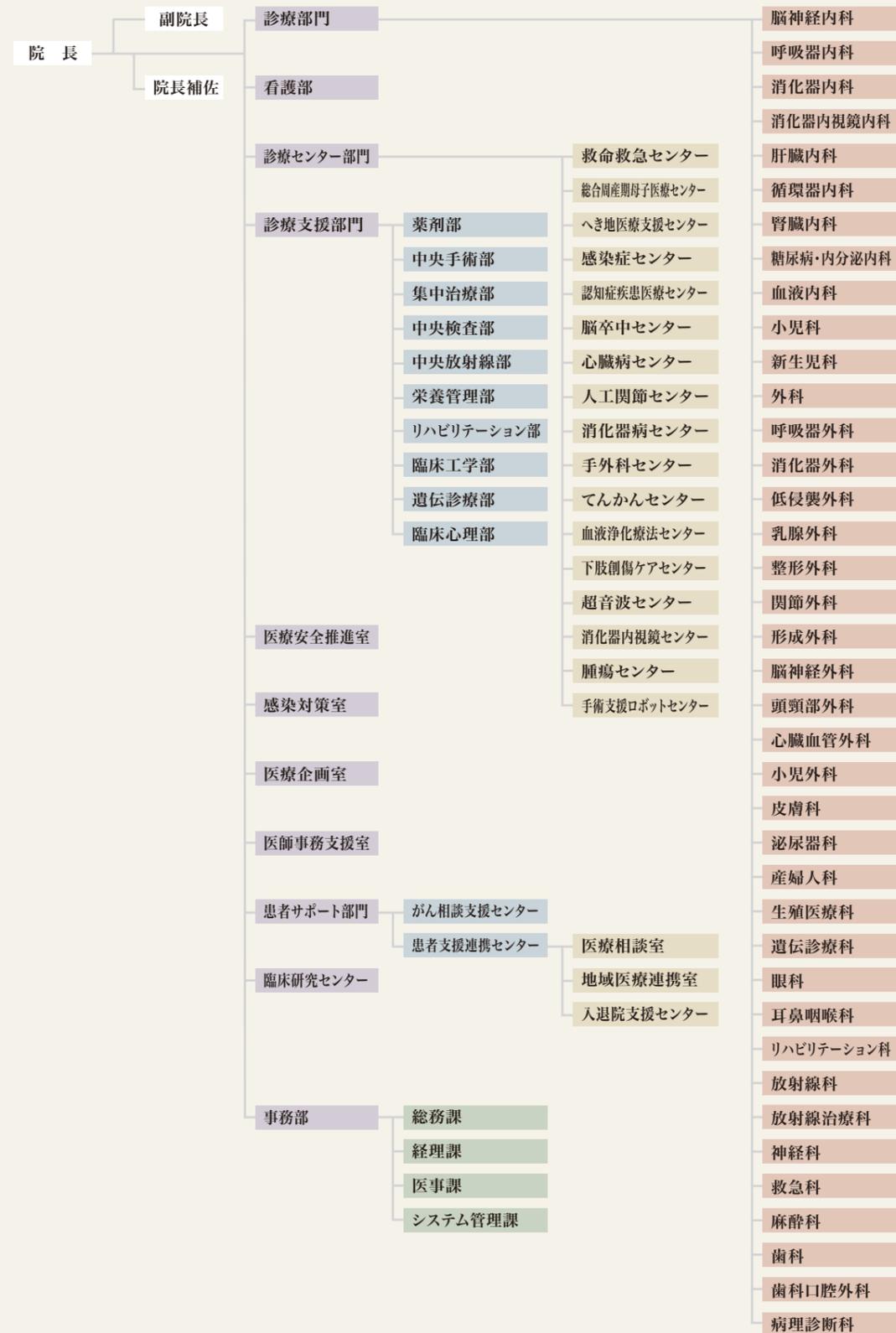
タリーズコーヒー・セブンイレブン・食堂

患者サービスの充実、職員の福利厚生を目的に導入されました。



Organization Chart

組織図 (令和6年4月1日 現在)



History

沿革

昭和24年	4月	防府市車塚所在日本医療団山口県中央病院を同団解散により県が買収し、山口県立防府総合病院として発足(防府市車塚)
昭和28年	7月	山口県立中央病院に改称
昭和30年	2月	防府市八王子に移転
昭和30年	4月	県立防府高等看護学院併設開校
昭和34年	5月	人間ドック開設
昭和42年	2月	救急医療センターに指定
昭和43年	7月	臨床研修を行う病院に指定
昭和50年	12月	へき地中核病院に指定
昭和58年	5月	現病院棟開院(防府市大崎) 救命救急センター設置
平成4年	4月	診療報酬請求事務の全面委託
平成4年	6月	地域医療部設置
平成6年	6月	エイズ診療拠点病院に指定
平成6年	11月	心臓外科手術開始
平成8年	12月	基幹災害拠点病院に指定
平成10年	6月	臓器提供施設に指定
平成11年	4月	第二種感染症指定医療機関に指定
平成14年	4月	へき地支援機構の設置、へき地医療拠点病院に指定
平成15年	10月	臨床研修病院に指定
平成15年	12月	地域がん診療拠点病院に指定
平成16年	12月	第一種感染症指定医療機関に指定
平成17年	1月	財団法人日本医療機能評価機構認定病院
平成17年	4月	山口県立総合医療センターに改称
平成18年	1月	総合周産期母子医療センターに指定 臨床研究センター設置
平成19年	3月	国際規格ISO15189認定取得(中央検査部)
平成20年	2月	地域がん診療連携拠点病院に指定
平成22年	1月	人工関節センター設置 日本輸血細胞治療学会I&A認定取得
平成23年	4月	地方独立行政法人山口県立病院機構へ移行
平成24年	7月	手外科センター設置
平成25年	10月	HCU稼働
平成26年	8月	認知症疾患医療センターに指定 地域医療支援病院の承認
平成26年	9月	入退院支援センター設置
平成27年	1月	日本医療機能評価機構認定(3rd G.Ver1.0) ICU6床から12床へ増床
平成29年	1月	地域包括ケア病棟設置
令和元年	10月	血液浄化療法センター設置
令和2年	1月	日本医療機能評価機構認定(3rd G.Ver2.0)
令和2年	10月	脳卒中センター設置 下肢創傷ケアセンター設置
令和3年	6月	超音波センター設置
令和3年	12月	消化器内視鏡センター設置
令和4年	7月	てんかん支援拠点病院に指定
令和5年	2月	がんゲノム医療連携病院に指定
令和6年	4月	腫瘍センター設置 手術支援ロボットセンター設置

Access

アクセス



Overview

概要

経営主体 / 地方独立行政法人 山口県立病院機構

開設 / 昭和24年4月1日

標榜診療科目 / 内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、消化器内視鏡内科、肝臓内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、小児科、小児科(新生児)、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、頭頸部外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、婦人科(生殖医療)、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、精神科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科

病床数 / 504床(一般病床490床・感染症病床14床)

職員数 / 1,149名(令和6年4月1日)



地方独立行政法人 山口県立病院機構

山口県立総合医療センター

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地

TEL 0835-22-4411

山口県立総合医療センター

<https://www.ymgjp.jp>



令和6年5月発行